

倫倫姫プロジェクト:多言語情報倫理 e ラーニング教材の開発と運用 Princess Rin-Rin Project : Development of Multilingual Cyberethics e-Learning Materials

上田 浩¹, ペアリー・キース², 牧原 功³, キョク ルル⁴, 久米原 栄¹

群馬大学¹ 総合情報メディアセンター, ² 大学教育センター, ³ 国際教育・研究センター, ⁴ 教育学研究科

概要: 本稿では群馬大学における, 情報倫理 e ラーニング教材の開発ならびに多言語化について報告する. 本教材による情報倫理教育は学生教職員問わず全学的に実施されており, 教育内容の標準化, 質の保証ならびに自学自習の環境を実現した. 加えて, 英語, 中国語に対応することにより, 増加を続ける留学生への教育に対応することができた.

キーワード e ラーニング, 情報倫理, SCORM, Moodle, Global English, 留学生教育

1 はじめに

ネットワークが大学における教育研究活動の生活基盤となって久しい. 利用者に対する情報倫理教育は本学でも行われてはいるが, その重要性の割には徹底できていないのが実情である.

これらの問題を解決し, e ラーニングの推進を一層進めるため, SCORM 形式に準拠した, 多言語情報倫理 e ラーニング教材を開発した. 本教材を含む「情報倫理 e ラーニング」は群馬大学 Moodle¹ で運用中である.

2 本プロジェクトの趣旨

本学では平成 19 年に国立情報学研究所が中心となり策定された「高等教育機関の情報セキュリティのためのサンプル規程集 (以下サンプル規程集)」[1] に準拠した「群馬大学情報セキュリティポリシー (以下本学ポリシー)」を策定した. 本学ポリシーの普及にあたり学内で講習会を随時開催していたが, 全ての本学構成員が受講することは困難であった.

加えて, 講習会を受講した者には VPN システムの利用を許可するというインセンティブを導入したため, 「次の講習会はいつですか? 」という問い合わせが殺到した.

学生に対しては教養教育科目「情報処理入門」の 2 ~ 3 コマを「情報倫理」に充て, 総合情報メディアセンター教員をはじめとする専任教員が教育を行っているが, 担当者により内容が大きく違っていたり, 最新の ICT や社会情勢に合わせ講義内容をアップデートするのが困難になっていた.



図 1: 倫倫姫と注吉. 注吉の体の後半分はマウスになっている.

このように, 学生教職員を問わない本学ポリシーの全学的普及のため, 「いつでも」「どこでも」学習できる環境が必要となり, 情報倫理 e ラーニング教材を開発する「倫倫姫プロジェクト」がスタートした. 本プロジェクトは全学的に Moodle 利用を推進するという本学の方針とも合致したものであった.

3 “倫倫姫”の由来

本教材の内容は, 受講者にとって興味深いものというよりは, 既知っていることの再確認である場合が多いため, 退屈なものになりがちである. 従って, 教材に親しみやすいキャラクターを登場させることは必然的な流れである [2]. 我々はメインのキャラクターを「情報倫理」より「倫倫姫」と名付けた. また, 要点を紹介するキャラクターを「マウス」と「注意」から, ネズミの「注吉」とした (図 1).

¹<http://mdl.media.gunma-u.ac.jp/security/>

序章 (5 分)
第 1 章 情報の中に生きる私たち (10 分)
第 2 章 個人情報 (15 分)
第 3 章 知的財産権 (10 分)
第 4 章 電子メール (20 分)
第 5 章 Web サイト (20 分)
第 6 章 コンピュータウイルス (20 分)
第 7 章 不正アクセスの防止 (15 分)
第 8 章 ファイル交換ソフト (10 分)
終章 ~エンディング~ (5 分)
総合テスト (10 分)

図 2: 教材の構成「総合テスト」は理解度を客観的に判定するため受験の度に問題が変わる。

4 教材の特徴

学習意欲を高めるための工夫 本教材は図 2 のように構成されており、どの章からでも学習できる。Flash による動きのある教材となっており、各章の学習は次のように進めていく。

危険度チェック 問題意識を持つためのクイズ

身近な事例 章の内容に対応したインシデントを身近なものとして認識できるような具体的事例をドラマ仕立てで紹介

基礎知識を学ぼう 事例に関連した情報倫理ならびにセキュリティの基礎事項の解説

群馬大学では 本学独自の内容を集約し強調したもので、主にシステムの利用方法や本学のサービスに言及

ミニクイズ 章全体の復習

“持続可能”コンテンツ 本教材は本学ポリシーのもととなったサンプル規程集 [1] に完全準拠している。サンプル規程集と本学ポリシーとの差分が存在する内容については、「群馬大学では」というページに集約している。つまり、企業や他大学でサンプル規程集に基づいた情報セキュリティ教育を行う²にはこの部分のみをカスタマイズすれば良い。

ナレーションは台本に対応した電子音声によるもので、カスタマイズや修正が容易である。もちろん音声に合わせた字幕が表示されるようになっている。本学では毎年最新のインシデントを追加するようにしている。

5 「情報倫理 e ラーニング」コースの運用と評価

2009 年 4 月より新入生対象「情報処理入門」の講義での利用が開始された。また、同年 5 月より本教材を教職員を含む全学に公開した。2010 年 11 月 19 日現在、1,938 名のユニークなユーザがアクセスしている。総合テストを含め全てを受講したのは 903 名である。本コースは年間 307,542 のアクティビティが確認され、群馬大学 Moodle で最も活発なコースとなっている。

6 多言語化への取り組み

本教材を大学院のある講義で使用したところ、受講生の多くは日本語が十分に理解できない留学生であったため、本学大学教育センター、国際教育・研究センターと連携し、本教材を英語化ならびに中国語化することとなった。

多言語化にあたり、各国の文化の違いを考慮しつつ、できるだけその言語圏に合った表現を追求した。また、事実上全世界の公用語となっている英語化にあたっては、日本人学生を含め、英語のネイティブスピーカーとは限らない学生が容易に理解できるよう簡潔かつ明快な表現を心掛けた。電子音声の採用は、カスタマイズや修正が容易だけでなく、空港のアナウンスや電話でのサービス対応など、電子音声放送の普及という社会情勢に合ったものであり、我々が電子音声を聞き取るスキルを身につけるための一助にもなっていると考える。

7 まとめと今後の課題

本取り組みにより「実際に e ラーニングが利用され、大きな一歩となった」。 (受講者の感想より) 今後も継続的な内容の改訂および多言語化に取り組んでいきたい。

参考文献

- [1] 国立情報学研究所 ネットワーク運営・連携本部 国立大学法人等における情報セキュリティポリシー策定作業部会、電子情報通信学会ネットワーク運用ガイドライン検討ワーキンググループ、「高等教育機関の情報セキュリティ対策のためのサンプル規程集」、国立情報学研究所、2007
- [2] 経済産業省、「経済産業省 CHECK PC! 」, <http://www.checkpc.go.jp/>, 2009

²ライセンス費用はお問い合わせください。